

2023年度 大学入試を振り返る

本誌4・5月号では、2023年度入試の速報として大学共通テスト（以下、共通テスト）の概況と国公立大、主要私立大の出願状況についてお伝えした。

このたび、全国の高等学校の先生方にご協力いただき184万件の貴重な入試結果調査（可否）データを集めることができた。本誌では、入試結果調査データと各大学から送付いただいた最終的な入試結果の集計結果を踏まえ、2023年度入試を総括する。個々の大学の入試結果については、本誌の17頁以降に掲載しているので、ぜひご活用いただきたい。

受験人口の減少

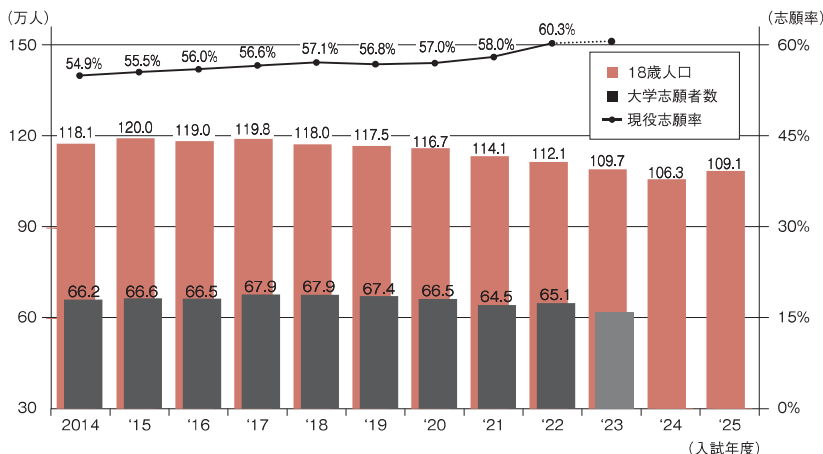
●大学志願者数は減少、現役生中心の入試へ

はじめに今春の受験環境について触れておく。【図表1】は18歳人口、大学志願者数、現役志願率（大学志願者に占める現役生の割合）の推移をみたものである。18歳人口は2018年度から減少期に入っており、2023年度は前年から2万4千人（前年比98%）減少した。大学志願者数も連動して減少しており、今春の大学志願者数は前年から2%減少したものと推測する。ただし、長い期間で見ると、大学志願者数の減少は18歳人口の減少率と比べてゆるやかになっている。これは現役志願率の高まりによるもので、今春の現役志願率は前年をさらに上回る見込みだ。

近年の受験環境の特徴として、既卒生志願者の減少が挙げられる。2014年度には8万人以上いた既卒生志願者は、この10年間で大幅に減少し今春は5万人を下回ったと考えられる。既卒生志願者の減少にともない、現役生が占める割合は年々上昇し、今春の大学志願者の9割以上は現役生が占めていたものと推測する。

今後の展望だが、18歳人口は2024年度でさらに減少する。2025年度は増加に転じるが、2027年度から再び減少が続く。大学志願者数も引き続き減少することが見込まれ、大学入試はますます競争緩和の時代に入っていく。受験生にとって追い風といえる環境である。

【図表1】18歳人口・大学志願者・現役志願率の推移



※文部科学省「学校基本調査」より作成、2023年度大学志願者数、現役志願率は河合塾推定

国公立大学

●前期日程 前年を下回る志願者数、倍率はダウン

ここから、国公立大の入試結果をみていく。前期日程の志願者数は、231,415人（前年比98.7%）となった【図表2】。合格者数は、91,192人（前年比99%）となり、倍率（志願者÷合格者。以下、とくに記載がない場合は同じ）は2.5倍と前年からわずかにダウンした。後期日程では、志願者は前年比98.0%と減少したが、後期日程の廃止・縮小にともない募集人員も減っており、倍率は7.7倍と前年から変化はなかった。中期日程の志願者は前年比100.9%と前年並みを維持したが、今春新たに公立大として入試を実施した周南公立大の影響によるもので、周南公立大を除く大学で比較すると96.2%と減少率がやや高くなった。倍率は6.5倍から6.2倍へとダウンした。

【図表2】国公立大入試結果 全体概況

日程	志願者数 (A)					合格者数 (B)					倍率 (A/B)		
	21	22	23	22/21	23/22	21	22	23	22/21	23/22	21	22	23
前期	235,409	234,557	231,415	99.6%	98.7%	91,051	91,917	91,192	101.0%	99.2%	2.6	2.6	2.5
中期	29,090	31,380	31,663	107.9%	100.9%	5,081	4,831	5,113	95.1%	105.8%	5.7	6.5	6.2
後期	160,920	163,412	160,068	101.5%	98.0%	22,234	21,299	20,812	95.8%	97.7%	7.2	7.7	7.7
全体	425,419	429,349	423,146	100.9%	98.6%	118,366	118,047	117,117	99.7%	99.2%	3.6	3.6	3.6

※ 5月23日現在、河合塾調べ

●国立難関10大学 安定した人気を示す

【図表3】国立難関10大学（前期日程）入試結果

大学	志願者数 (A)					合格者数 (B)					倍率 (A/B)		
	21	22	23	22/21	23/22	21	22	23	22/21	23/22	21	22	23
北海道	5,104	5,409	5,284	106%	98%	2,014	2,010	2,009	100%	100%	2.5	2.7	2.6
東北	4,499	4,392	4,239	98%	97%	1,714	1,733	1,710	101%	99%	2.6	2.5	2.5
東京	9,089	9,507	9,306	105%	98%	2,993	2,996	2,997	100%	100%	3.0	3.2	3.1
東京工業	3,638	3,802	4,167	105%	110%	967	973	966	101%	99%	3.8	3.9	4.3
一橋	2,564	2,588	2,641	101%	102%	869	888	849	102%	96%	3.0	2.9	3.1
名古屋	4,581	4,339	4,258	95%	98%	1,813	1,808	1,776	100%	98%	2.5	2.4	2.4
京都	7,045	7,210	7,417	102%	103%	2,725	2,743	2,709	101%	99%	2.6	2.6	2.7
大阪	6,991	7,501	7,398	107%	99%	3,069	3,102	3,018	101%	97%	2.3	2.4	2.5
神戸	6,194	6,071	5,885	98%	97%	2,052	2,056	2,046	100%	100%	3.0	3.0	2.9
九州	5,175	5,143	5,067	99%	99%	2,132	2,178	2,111	102%	97%	2.4	2.4	2.4
全体	54,880	55,962	55,662	102%	99%	20,348	20,487	20,191	101%	99%	2.7	2.7	2.8

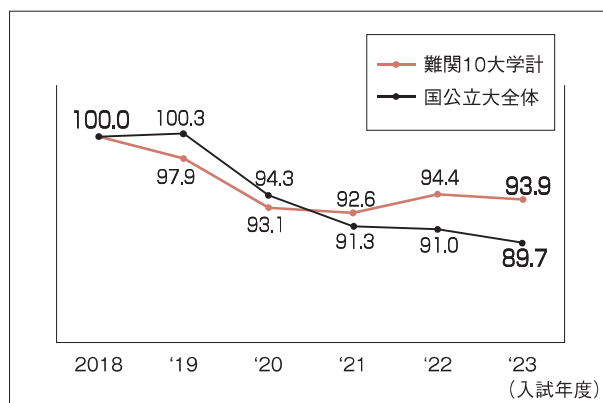
※ 5月23日現在、河合塾調べ

国立難関10大学の前期日程の志願者数は、55,662人（前年比99%）となった【図表3】。

大学別にみると、**東京工業大**、**一橋大**、**京都大**で前年を上回る志願者を集めた。**東京工業大**では、志願者数が前年から1割増加し、倍率は3.9倍から4.3倍へとアップした。**一橋大**は、ソーシャル・データサイエンス学部新設の影響で志願者が増加した。ソーシャル・データサイエンス学部は、募集人員30名に対し志願者数182人（志願倍率6.1倍）を集め、出願した半数が2段階選抜で不合格となった。**京都大**は2年連続の志願者増となり、倍率は2.7倍にアップした。

東京大の志願者は前年比98%と微減。大学が公表した現卒別の志願者内訳をみると、既卒生が前年から4%減少しており、志願者に占める現役生の割合は68.1%と過去10年で最も高くなった。現役生中心の入試は東京

【図表4】国公立大志願者推移（前期日程）



※2018年度志願者数を100としたときの増減率

大も例外ではない。

国公立大全体の志願者数は2019年度を境に大きく減少し、以降ゆるやかに減少が続いている。国立難関10大学も同様に減少しているものの、国公立大全体ほどは減っていない。【図表4】は、過去6年間の志願者数の推移を、2018年度志願者数を基準にみたものである。国公立大全体の志願者数はこの6年間で1割以上減少したのに比べると、国立難関10大学の減少率は小幅に留まっているのがわかる。来春も受験生の積極的な挑戦に期待したい。

●難関資格に関連深い系統に志願者集まる 医学科は倍率上昇

【図表5】国公立大（前期日程）学部系統別入試結果

学部系統	志願者数（A）					合格者数（B）					倍率（A／B）		
	21	22	23	22/21	23/22	21	22	23	22/21	23/22	21	22	23
文・人文	20,767	20,680	19,061	100%	92%	8,210	8,218	8,213	100%	100%	2.5	2.5	2.3
社会・国際	12,779	12,186	11,315	95%	93%	4,940	5,027	4,999	102%	99%	2.6	2.4	2.3
法・政治	12,219	12,054	11,971	99%	99%	4,800	4,831	4,775	101%	99%	2.5	2.5	2.5
経済・経営・商	25,154	24,384	25,478	97%	104%	10,184	10,169	10,188	100%	100%	2.5	2.4	2.5
教育－教員養成課程	17,352	16,695	16,467	96%	99%	7,814	7,972	7,839	102%	98%	2.2	2.1	2.1
教育－総合科学課程	1,905	2,006	2,102	105%	105%	936	967	978	103%	101%	2.0	2.1	2.1
理	14,003	14,098	14,159	101%	100%	5,704	5,706	5,619	100%	98%	2.5	2.5	2.5
工	64,781	64,085	61,322	99%	96%	25,371	25,653	25,283	101%	99%	2.6	2.5	2.4
農	14,921	15,893	16,175	107%	102%	6,299	6,287	6,273	100%	100%	2.4	2.5	2.6
医・歯・薬・保健	35,133	35,895	37,006	102%	103%	11,530	11,876	11,673	103%	98%	3.0	3.0	3.2
医	14,773	15,087	15,960	102%	106%	3,765	3,809	3,722	101%	98%	3.9	4.0	4.3
歯	1,595	1,576	1,769	99%	112%	499	540	521	108%	96%	3.2	2.9	3.4
薬	2,851	3,120	3,141	109%	101%	921	932	914	101%	98%	3.1	3.3	3.4
看護	10,423	10,647	10,281	102%	97%	4,284	4,432	4,390	103%	99%	2.4	2.4	2.3
医療技術・他	5,491	5,465	5,855	100%	107%	2,061	2,163	2,126	105%	98%	2.7	2.5	2.8
生活科学	2,510	2,410	2,349	96%	97%	903	900	892	100%	99%	2.8	2.7	2.6
芸術・スポーツ科学	6,730	6,848	6,881	102%	100%	1,682	1,672	1,665	99%	100%	4.0	4.1	4.1
総合・環境・情報・人間	7,155	7,323	7,129	102%	97%	2,678	2,639	2,795	99%	106%	2.7	2.8	2.6
全体	235,409	234,557	231,415	100%	99%	91,051	91,917	91,192	101%	99%	2.6	2.6	2.5

※ 5月23日現在、河合塾調べ
※ 学部系統の分類は河合塾による

【図表5】は国公立大前期日程の学部系統別の入試結果である。

文系学部では、「文・人文」「社会・国際」が大きく減少した一方、「経済・経営・商」は高い増加率となった。なかでも、横浜国立大（経済）が前年比272%と高い増加率となり、倍率は5.0倍に高騰し難化した。過去2年が1倍台の低倍率入試となった反動によるものとみる。

理系学部では、「農」で志願者が増加した一方、「工」では減少した。「農」ではとくに獣医分野で志願者が増加し、倍率は4.1倍から4.6倍にアップした。そのほか、「医」「歯」「薬」といった難関資格に関連する分野でも前年を上回る志願者数となった。とくに医学科では、49大学中半数以上の大学で志願者が増加し、倍率は4.3倍まで上昇した。後期日程でも志願者前年比104%と好調で、倍率は17.0倍から18.7倍となった。共通テストの平均点アップが積極的な出願を後押ししたものとみるが、ひところ低迷していた医学科人気の復調がうかがえる。

「総合・環境・情報・人間」では、全体の志願者は前年比97%と減少したが、情報分野では前年比116%と大きく増加した。前述の一橋大（ソーシャル・データサイエンス）、名古屋市立大（データサイエンス）新設の影響によるもので、倍率は2.7倍と前年から大きな変化はなかった。IT人材のニーズの高まりを受け、2024年度には宇都宮大（データサイエンス経営）、千葉大（情報・データサイエンス）、お茶の水女子大（共創工－文化情報工）、下関市立大（データサイエンス）、高知工科大（データ&イノベーション）、熊本大（情報融合）などで情報系学部・学科の新設・改組が予定されている。2025年度からの新課程入試では新教科「情報」が加わることもあり、「情報」は今後も大学入試のトピックスのひとつとなるだろう。志望動向にも引き続き注目したい。

私立大学

●志願者数、合格者数ともに減少

【図表6】私立大入試結果 全体概況

		志願者数 (A)					合格者数 (B)					倍率 (A/B)		
		21	22	23	22/21	23/22	21	22	23	22/21	23/22	21	22	23
方式別	一般	2,129,983	2,132,929	2,032,540	100%	95%	650,208	686,120	656,817	106%	96%	3.3	3.1	3.1
	共通テスト	1,063,004	1,053,506	1,027,755	99%	98%	390,757	419,992	426,498	107%	102%	2.7	2.5	2.4
期別	一期	2,955,519	2,968,224	2,866,523	100%	97%	962,297	1,038,658	1,028,250	108%	99%	3.1	2.9	2.8
	二期	237,468	218,211	193,772	92%	89%	78,668	67,454	55,065	86%	82%	3.0	3.2	3.5
全体		3,192,987	3,186,435	3,060,295	100%	96%	1,040,965	1,106,112	1,083,315	106%	98%	3.1	2.9	2.8

※ 5月23日現在、河合塾調べ、私立531大学の集計

※ いずれかの年度データが非公表の学部・学科等については集計対象から除く

※ 過年度の集計には公立大学法人へ移行した大学の数値を含む

私立大一般選抜の志願者数（延べ数：以降すべて同じ）は前年比96%と減少した【図表6】。方式別にみると、一般方式で5%減少したのに対し、共通テスト方式では前年比98%と減少率は小幅である。私立大志望者の共通テスト離れが懸念されているが、今春入試においては、共通テストの平均点上昇、上智大（3教科型）や早稲田大（教育）などの共通テスト方式新規実施に加え、一部の大学で共通テスト方式の入学検定料を割り引く制度が導入されたことなど複数の要因により志願者の減りがゆるやかになったと考えられる。

期別にみると、二期で志願者が大きく減少した。一期で合格を勝ち取り、二期まで出願を行わなかった受験生が前年以上に多かったと推測する。

合格者数は私立大全体で前年比98%、人数にして22,797人の減少となった。2019年度入試以降、5年ぶりの合格者減少となったが、志願者数の減少率ほど合格者数は減少しなかったため、倍率（志願者÷合格者）は2.9倍から2.8倍とわずかにダウンした。18歳人口の減少に伴う大学志願者数の減少に加え、大学・学部の新設と入学定員増加により、受験生の受け皿はますます広がっており、私立大入試の競争緩和は継続しているとみられる。

●地方での志願者減少目立つ 地元志向は緩和、都心回帰の動き進む

【図表7】私立大 地区別入試結果

地区	志願者数 (A)					合格者数 (B)					倍率 (A/B)		
	21	22	23	22/21	23/22	21	22	23	22/21	23/22	21	22	23
北海道	33,397	35,577	33,146	107%	93%	18,533	19,710	18,001	106%	91%	1.8	1.8	1.8
東北	34,109	36,107	31,713	106%	88%	17,709	18,918	17,565	107%	93%	1.9	1.9	1.8
関東・甲信越(首都圏除く)	44,289	42,034	34,553	95%	82%	16,356	16,389	14,627	100%	89%	2.7	2.6	2.4
首都圏	1,817,128	1,817,269	1,773,201	100%	98%	527,455	577,385	583,003	109%	101%	3.4	3.1	3.0
北陸	25,394	23,872	20,214	94%	85%	12,041	12,521	12,403	104%	99%	2.1	1.9	1.6
東海	282,458	266,717	242,617	94%	91%	114,982	114,350	106,905	99%	93%	2.5	2.3	2.3
近畿	764,619	776,512	751,195	102%	97%	246,646	258,895	244,578	105%	94%	3.1	3.0	3.1
中国	49,968	46,454	40,220	93%	87%	25,711	25,529	24,136	99%	95%	1.9	1.8	1.7
四国	8,874	9,208	7,597	104%	83%	6,653	6,825	6,442	103%	94%	1.3	1.3	1.2
九州	132,751	132,685	125,839	100%	95%	54,879	55,590	55,655	101%	100%	2.4	2.4	2.3
全体	3,192,987	3,186,435	3,060,295	100%	96%	1,040,965	1,106,112	1,083,315	106%	98%	3.1	2.9	2.8

※ 5月23日現在、河合塾調べ、私立531大学の集計

※ いずれかの年度データが非公表の学部・学科等については集計対象から除く

※ 過年度の集計には公立大学法人へ移行した大学の数値を含む

【図表7】は私立大の地区別の入試結果である。私立大全体の志願者前年比96%を基準にみていくと、首都圏と近畿の2大都市圏は堅調だが、東北、関東・甲信越、北陸、中国、四国では志願者が大きく減少した。河合塾の入試結果調査データで受験生の地区別の動向をみると、志願者が大きく減った地区では、首都圏や近畿といった都市部の大学を志願した割合が増加した。昨春入試においても地元志向緩和の兆しはみられたが、今春入試では

さらに都心回帰の動きが進んだものとみられる。

合格者数は、首都圏・九州を除くすべての地区で前年を下回った。志願者の減少が大きかった東北、関東・甲信越、北陸、中国、四国では、倍率がダウンした。首都圏でも倍率はダウンしているものの、地方での競争緩和がより際立つ結果となった。

●「法・政治」で志願者が大幅に減少 「経済・経営・商」「農」「医」で倍率アップ

【図表8】私立大 学部系統別入試結果

学部系統	志願者数 (A)					合格者数 (B)					倍率 (A/B)		
	21	22	23	22/21	23/22	21	22	23	22/21	23/22	21	22	23
文・人文	566,238	537,634	498,918	95%	93%	194,535	209,780	199,073	108%	95%	2.9	2.6	2.5
社会・国際	319,736	314,059	297,813	98%	95%	104,198	114,274	110,721	110%	97%	3.1	2.7	2.7
法・政治	228,899	245,556	222,604	107%	91%	81,051	85,603	82,430	106%	96%	2.8	2.9	2.7
経済・経営・商	659,695	634,484	632,521	96%	100%	195,090	210,032	204,954	108%	98%	3.4	3.0	3.1
理	123,212	124,615	124,590	101%	100%	47,820	49,987	50,205	105%	100%	2.6	2.5	2.5
工	650,019	694,368	673,871	107%	97%	210,709	229,165	237,077	109%	103%	3.1	3.0	2.8
農	82,547	83,509	86,091	101%	103%	33,190	33,471	30,808	101%	92%	2.5	2.5	2.8
医・歯・薬・保健	286,178	282,351	270,008	99%	96%	82,576	82,123	78,745	99%	96%	3.5	3.4	3.4
医	88,133	86,889	90,662	99%	104%	6,871	6,849	6,538	100%	95%	12.8	12.7	13.9
歯	4,888	5,075	4,890	104%	96%	2,165	2,450	2,507	113%	102%	2.3	2.1	2.0
薬	60,263	62,793	60,324	104%	96%	25,180	25,070	24,274	100%	97%	2.4	2.5	2.5
看護	70,985	68,929	62,129	97%	90%	24,648	24,580	24,035	100%	98%	2.9	2.8	2.6
医療技術・他	61,909	58,665	52,003	95%	89%	23,712	23,174	21,391	98%	92%	2.6	2.5	2.4
生活科学	56,583	54,009	43,448	95%	80%	26,546	24,152	20,544	91%	85%	2.1	2.2	2.1
芸術・スポーツ科学	90,628	88,589	83,700	98%	94%	30,869	29,816	29,111	97%	98%	2.9	3.0	2.9
総合・環境・情報・人間	129,252	127,261	126,731	98%	100%	34,381	37,671	39,647	110%	105%	3.8	3.4	3.2
全体	3,192,987	3,186,435	3,060,295	100%	96%	1,040,965	1,106,074	1,083,315	106%	98%	3.1	2.9	2.8

※ 5月23日現在、河合塾調べ、私立531大学の集計

※ いずれかの年度データが非公表の学部・学科等については集計対象から除く

※ 過年度の集計には公立大学法人へ移行した大学の数値を含む

※ 入試方式により大学計しか公表しない大学があるため、「全体」の数値は他の集計の合計と一致しない

【図表8】は私立大の学部系統別の入試結果である。

文系学部では「経済・経営・商」を除くすべての系統で志願者減となった。とくに「法・政治」は、前年比91%と志願者減少が目立つ。前年入試で志願者が増えた反動から、敬遠した受験生が一定数いたと考えられる。

理系学部では「理」は前年並みとなったほか、「農」「医」で志願者数が増加し、倍率が上昇した。とくに獣医分野では志願者が前年から2割以上増加し、倍率は5.7倍から6.6倍にアップした。「医」では、一般方式では前年並みの志願者数だったのに対し、共通テスト方式では前年比127%と大きく増加した。「医」全体の倍率は12.7倍から13.9倍に高騰し、私立大においても人気回復の様相を呈している。

合格者数に目を向けると、合格者数が減った系統が多いなか、「理」「工」「歯」「総合・環境・情報・人間」では合格者が増加した。「総合・環境・情報・人間」のうち、学部・学科の新設が相次ぐ情報分野は合格者数が大きく増加し、倍率は3.7倍から3.3倍にダウンした。

入試結果調査データをもとに河合塾が設定したボーダーランクのアップダウン状況を見ると、理系学部よりも文系学部でのランクダウンの割合が高く、4～5割の募集区分で易化がみられた。

●難関大でも合格者数増加

【図表9】は各地区の拠点大や定員規模の大きい主な大学の状況をまとめたもの。志願者数が10万人を超えた大学は千葉工業大、明治大、近畿大の3大学であった。

大学グループごとの志願者数を見ると、首都圏では「早慶上理」「MARCH」などで概ね前年並み、近畿圏では「関関同立」「産近甲龍」とともに志願者が増加。模試時から難関大人気はうかがえたが、本番でも受験生の積極的なチャレンジ志向がみられる入試となった。

【図表9】私立大 主な大学の入試結果

大学	志願者数 (A)					合格者数 (B)					倍率 (A/B)		
	21	22	23	22/21	23/22	21	22	23	22/21	23/22	21	22	23
早慶上理	203,911	207,992	205,540	102%	99%	47,214	49,139	52,127	104%	106%	4.3	4.2	3.9
慶應義塾	36,681	37,894	37,411	103%	99%	9,327	9,975	9,625	107%	96%	3.9	3.8	3.9
上智	26,270	22,503	26,552	86%	118%	6,776	7,153	9,176	106%	128%	3.9	3.1	2.9
東京理科	49,301	53,752	50,698	109%	94%	16,579	16,990	17,952	102%	106%	3.0	3.2	2.8
早稲田	91,659	93,843	90,879	102%	97%	14,532	15,021	15,374	103%	102%	6.3	6.2	5.9
MARCH	374,558	386,049	377,035	103%	98%	89,137	94,551	95,641	106%	101%	4.2	4.1	3.9
青山学院	40,123	47,839	43,948	119%	92%	9,884	10,787	11,017	109%	102%	4.1	4.4	4.0
中央	78,534	64,795	67,786	83%	105%	19,829	18,589	17,305	94%	93%	4.0	3.5	3.9
法政	90,956	108,343	99,051	119%	91%	20,033	22,986	24,031	115%	105%	4.5	4.7	4.1
明治	99,470	102,426	108,042	103%	105%	24,732	26,688	27,196	108%	102%	4.0	3.8	4.0
立教	65,475	62,646	58,208	96%	93%	14,659	15,501	16,092	106%	104%	4.5	4.0	3.6
成成明國武	86,341	93,612	91,784	108%	98%	24,854	28,879	28,775	116%	100%	3.5	3.2	3.2
國學院	19,345	21,533	20,401	111%	95%	4,985	5,977	5,906	120%	99%	3.9	3.6	3.5
成蹊	18,641	19,475	18,445	104%	95%	5,398	5,864	5,208	109%	89%	3.5	3.3	3.5
成城	13,673	15,696	14,208	115%	91%	4,677	5,284	5,161	113%	98%	2.9	3.0	2.8
武蔵	14,661	17,565	15,991	120%	91%	3,867	4,726	4,800	122%	102%	3.8	3.7	3.3
明治学院	20,021	19,343	22,739	97%	118%	5,927	7,028	7,700	119%	110%	3.4	2.8	3.0
日東駒専	265,039	267,779	261,198	101%	98%	86,248	92,444	93,356	107%	101%	3.1	2.9	2.8
駒澤	29,902	29,201	30,684	98%	105%	9,130	10,339	10,525	113%	102%	3.3	2.8	2.9
専修	47,381	46,547	44,918	98%	97%	13,650	15,119	15,779	111%	104%	3.5	3.1	2.8
東洋	89,808	98,261	87,090	109%	89%	27,731	30,338	30,332	109%	100%	3.2	3.2	2.9
日本	97,948	93,770	98,506	96%	105%	35,737	36,648	36,720	103%	100%	2.7	2.6	2.7
首都圏理系10大学	283,622	309,983	317,997	109%	103%	74,575	88,411	92,836	119%	105%	3.8	3.5	3.4
首都圏女子14大学	60,113	56,917	52,624	95%	92%	25,953	26,949	25,461	104%	94%	2.3	2.1	2.1
関関同立	241,121	252,110	262,790	105%	104%	79,006	85,050	87,998	108%	103%	3.1	3.0	3.0
同志社	44,481	45,854	49,972	103%	109%	15,804	16,412	17,227	104%	105%	2.8	2.8	2.9
立命館	83,512	88,335	91,382	106%	103%	31,943	32,627	33,404	102%	102%	2.6	2.7	2.7
関西	79,511	79,184	77,699	100%	98%	18,815	20,182	19,286	107%	96%	4.2	3.9	4.0
関西学院	33,617	38,737	43,737	115%	113%	12,444	15,829	18,081	127%	114%	2.7	2.4	2.4
産近甲龍	248,128	265,737	268,481	107%	101%	71,429	76,976	69,236	108%	90%	3.5	3.5	3.9
京都産業	40,925	37,735	38,275	92%	101%	11,340	12,227	10,954	108%	90%	3.6	3.1	3.5
龍谷	56,379	55,880	61,083	99%	109%	17,835	19,553	18,482	110%	95%	3.2	2.9	3.3
近畿	135,979	157,434	152,457	116%	97%	37,091	39,483	34,356	106%	87%	3.7	4.0	4.4
甲南	14,845	14,688	16,666	99%	113%	5,163	5,713	5,444	111%	95%	2.9	2.6	3.1
北星学園・北海学園	9,375	9,947	8,532	106%	86%	5,109	5,627	5,150	110%	92%	1.8	1.8	1.7
東北学院	9,891	13,010	12,727	132%	98%	5,114	6,380	6,181	125%	97%	1.9	2.0	2.1
南山・愛知・中京・名城	107,343	112,712	106,942	105%	95%	42,889	43,209	41,497	101%	96%	2.5	2.6	2.6
西南学院・福岡	61,505	62,354	61,207	101%	98%	20,834	21,195	21,809	102%	103%	3.0	2.9	2.8

※ 5月23日現在、河合塾調べ

※ いずれかの年度データが非公表の学部・学科等については集計対象から除く

※ 過年度の集計には公立大学法人へ移行した大学の数値を含む

首都圏理系10大学：千葉工業・北里・工学院・芝浦工業・東京工科・東京電機・東京都市・東京農業・麻布・神奈川工科

首都圏女子14大学：大妻女子・学習院女子・共立女子・白百合女子・実践女子・昭和女子・聖心女子・清泉女子・津田塾・東京家政・東京女子・日本女子・

東洋英和女学院・フェリス女学院

合格者数に目を向けると、「早慶上理」は前年比106%、「関関同立」は同103%と、地区の最難関グループで合格者数の増加が目立った。前年より合格者数が大きく増えたのは、千葉工業大（+6,126人）、関西学院大（+2,252人）、上智大（+2,023人）などである。とくに2割近く志願者を増やした上智大は、合格者数が前年比128%と志願者数の増加率を大きく上回ったため、倍率は前年の3.1倍から2.9倍へダウンした。一般方式、共通テスト方式とも6割以上の募集区分で易化しており、難関大においても競争緩和が感じられる。

来春入試の展望だが、受験人口はゆるやかながらも減少する。私立大では入学定員増や学部新設の動きもあり、受験生にとってはますます追い風の状況が続くだろう。新課程入試を翌年に控えてはいるが、受験生には志望大学への積極的なチャレンジを期待したい。

入試結果の詳細については各大学のホームページをご確認いただきたい。

2024年度入試のトピックスについては「ガイドライン9月号」にてご報告する予定です。

河合塾の大学入試情報サイトKei-Netでは、2024年度入試の変更点や学部・学科の新増設の状況など、最新の入試情報を掲載しています。ぜひご活用ください。

URL = www.keinet.ne.jp/exam/future/